

H26 年度

浜中町 オオセグロカモメ・ウミウ・ケイマフリ繁殖調査

NPO法人エトピリカ基金



浜中町 オオセグロカモメ・ウミウ・ケイマフリ繁殖調査

1) 目的

オオセグロカモメ (*Larus schistisagus*) とウミウ (*Phalacrocorax Capillatus*) の繁殖地は、町内に数多くあると考えられている。これらの種に関しては、道東の海岸域で普通に見られるが、世界的にみると極東にのみ分布する非常に限られた種である。また、オオセグロカモメについては、北海道道東部域が日本での繁殖分布の中心であるが、過去 20 年間に、その生息数が激減しているといわれている。しかし、生息数・繁殖数の調査も、普通種ゆえに少なく、数の推移については、情報不足である。ケイマフリ (*Cepphus carbo*) は世界的な分布が狭く、主要な繁殖地である北海道においては激減し、現在は 1000 羽程度が生息していると言われ絶滅危惧種に指定されている。浜中町においても減少し現在は少数が生息するに過ぎずない。これら生息数が減少している海鳥類が、現在、どれくらい営巣しているかを把握するため、継続調査が可能な浜中町全域で繁殖状況調査を行い、オオセグロカモメ・ウミウ・ケイマフリの営巣数や場所を特定する。また調査時に海鳥に影響を与えていると考えられるオジロワシ (*Haliueetus albicilla*) についても記録する。

1) 調査方法

浜中町全沿岸を 3 ケ所に分け、営巣時期に小型船で航行しオオセグロカモメ及びウミウの営巣数をカウントし地図上に位置を落とす。4 月下旬から 8 月の繁殖期間に陸上からも視認し、営巣数の把握や、集団繁殖地及び数か所の少数繁殖地を選定し雛の巣立ちまでの繁殖状況をモニタリングする。ケイマフリは海上調査において生息場所を把握するとともに、陸上から繁殖状況等の確認を行う。また繁殖に影響するオジロワシ等の状況も記録する。

4 月 24 日から霧多布島周辺で視認できる範囲のオオセグロカモメ及びウミウの営巣数の増減を記録した。また雛が生まれてからは巣立ちできる大きさに育つまでのモニタリングも行った。また小型船にて 6 月 4 日に霧多布から根室市境界まで、6 月 23 日には霧多布から琵琶瀬高台下まで及び火散布から琵琶瀬高台下及び厚岸町境界までの調査を行った。また霧多布島北側崖のウミウ繁殖モニタリングのため 6 月 7 日及び 7 月 24 日にも小型船にて調査を行った。



3 ケ所に分けた沿岸調査

小型船による沿岸調査においてはケイマフリの生息状況も記録し、繁殖の可能性のある涙岬から鯨浜及びケンボッキ島西側調査を7月22日から24日におこなった。また霧多布岬及び小島周辺では継続して行った海鳥調査時に記録した。



小型船による沿岸調査

3) 結果及び考察

今回の浜中町全域調査では、オオセグロカモメ400±巢・ウミウ541±巢・ケイマフリ10±巢を記録した。また地図上の赤字番号の地点では状況調査を継続して行った。また繁殖に影響があると考えられるオジロワシについても出現地点及び状況を記載した。種別の各地域の営巣場所・繁殖状況及び結果と考察は以下のとおりである。

(地図上の記号番号：O→オオセグロカモメ U→ウミウ K→ケイマフリ W→オジロワシ **赤字番号**は継続調査を行った場所)

① オオセグロカモメ結果：営巣場所及び繁殖状況（沿岸調査及び継続調査か所）

●浜中町北部：本幌戸港の離れ堤防のみに営巣



番号	営巣数
O1	46



●浜中町中央部：霧多布港離れ堤防や、霧多布島～ケンボッキ島周辺で営巣



番号	営巣数
O 2	2 3 2
O 3	1
O 4	3
O 5	6
O 6	1
O 7	1 5
O 8	1
O 9	1
O 1 0	2
O 1 1	3
O 1 2	1 2
O 1 3	1 7
O 1 4	1
O 1 5	4
O 1 6	1 8
O 1 7	2 2 ±
O 1 8	1
O 1 9	1
O 2 0	1
O 2 1	1 0 ±
計	3 5 2 ±

○2 (霧多布港) 繁殖状況

月日	上段営巣数	下段営巣数	合計	備考
5月31日	52	178	230 巣	
6月21日	56	176	232 巣	一部に小さい雛がいた
7月4日	44	111	155 巣	雛の見える巣88
	上段雛数	下段雛数		
7月14日	14	141	155 羽	
7月29日	4	90	94 羽	
8月6日	1	67	68 羽	
8月20日	0	43	63 羽	堤防を離れた20羽を含む

※オジロワシによる攻撃攪乱・カラスによる攻撃あり



6月4日



6月21日





7月4日

7月29日



8月6日



8月20日

○3 (霧多布港建物上) 繁殖状況

月日	状況
6月21日	屋上に1巣が見える
8月20日	親とともに幼鳥1羽



6月21日



8月20日

○4 繁殖状況

月日	状況
6月21日	3巣
6月29日	0巣

※オジロワシによる攪乱あり



○5 繁殖状況

月日	状況
5月31日	6巢
6月21日	0巢

※オジロワシによる攪乱あり



○6 繁殖状況

月日	状況
6月4日	1巢
6月7日	1巢
6月11日	0巢



○7 (ピリカ岩) 繁殖状況

月日	状況	備考
5月31日	13巢	
6月7日	14巢	
6月21日	7巢	
6月29日	4巢	1巢に雛3羽
7月4日	雛2羽+雛2羽	
7月14日	雛2羽	雛1羽の死体有り
7月16日	雛2羽	
8月12日	雛2羽+雛1羽	付属岩に小さな雛1羽が現れた(見えない所で遅れて繁殖したらしい。営巣数は計15巣となる)
8月16日	雛1羽	小さい雛のみ。大きくなった2羽は巣立ちか?
8月22日	0羽	まだ小さいので巣立ったわけではない

※オジロワシによる攪乱・ハシボソガラスによる攻撃あり



7月4日



7月16日



8月12日に付属岩に出て来た雛

08 繁殖状況

月日	状況
7月16日	雛1羽
8月16日	雛1羽
8月22日	0羽 (巣立ったか?)

※ハシボソガラスによる攻撃あり



8月16日

○9 繁殖状況

月日	状況
5月31日	1 巣
6月21日	1 巣
7月24日	0 巣



6月21日



○12 繁殖状況

月日	状況	備考
5月31日	6 巣	陸から見える範囲
6月10日	9 巣	
6月21日	8 巣	
6月23日	+ 3 巣 (計 Max 12 巣)	船にて陸側から見えない範囲の巣
29日	5 巣	陸から見える範囲
7月4日	雛 1 + 雛 1	他の 3 巣は親が座っていて雛は不明
8月7日	雛 1	
8月16日	雛 0	巣立ちしたかは不明

※オジロワシによる攪乱あり



○13 繁殖状況

月日	状況	備考
6月7日	1 1 巣	陸から見える範囲
6月21日	3 巣	
6月23日	+ 6 巣 (計 Max 1 7 巣)	船にて陸側から見えない範囲の巣
6月29日	雛 3 羽	陸から見える範囲
7月4日	雛 1 羽	
7月16日	雛 1 羽	
7月29日	雛 0	巣立ちまでいっていないと考えられる
8月2日	雛 0	船にて陸側から見えない範囲

※オジロワシによる攪乱あり



左の岩



○15 繁殖状況

月日	状況
6月10日	4 巣
6月21日	2 巣
6月29日	0 巣

※オジロワシによる攪乱あり



○16 繁殖状況

月日	状況	備考
6月11日	4巢	陸側から見える範囲
6月21日	3巢	
6月23日	+14巢 (計Max18巢)	船にて陸側から見えない範囲の巢
7月4日	雛1羽	他に1巢があるが雛は不明
7月15日	雛0羽	海側も含めすべて

※オジロワシによる攪乱あり



海側から



●浜中町南部：藻散布近くの1か所の岩礁で営巣



番号	営巣数
022	2



○オオセグロカモメ考察

オセグロカモメの繁殖は、15年前に比べると大幅に減少していると言われている。今回の3か所に分けた調査では浜中町全体で400±の営巣が記録された。北部では本幌戸港の46巣、南部では岩礁の2巣のみで、中央部の霧多布島周辺からケンボッキ島にかけての21か所で352±巣と集中していることが判明した。その中央部でも霧多布港外堤防で232巣と全体の6割近くが集中していた。次に多い小島では、15年前には島の上部では1m間隔に巣があり総数は不明だが相当数が繁殖していた。今回の調査では小規模な浜では2か所、上部は生息数から20程度と推定されただけであった。オオセグロカモメは集団だけではなく単独でも繁殖するが、今回は8か所で単独で営巣していた。

営巣後の繁殖状況を調べるために、霧多布島周辺の11か所で継続調査を行った。大規模繁殖地として霧多布港1か所、10以上の中規模として4か所、10以下の小規模として7か所で行った（中央部表の赤番号）。大規模繁殖地の霧多布港離れ堤防は上下に段がわかれている。上段は最大56巣、下段は178巣と、下段に多くが見られた。雛の孵化する7月から巣の数は減少した。隣接した堤防にはオジロワシ2羽がいて捕食や攪乱の結果であろうと考えられた。8月になると上段の雛は1羽、下段67羽まで減少し、巣立ちが始まった8月20日には63羽の雛が残った（1巣から雛が育つ割合0.27羽）。中規模繁殖地の4か所の計56巣では、巣立った可能性のある雛は3羽のみであった（同0.05羽）。小規模繁殖地の7か所の計17巣では巣立ちの可能性があったのは2羽のみであった（同0.11羽）。この結果から大規模繁殖地が雛の育つ割合が最も高いことが判明した。

成鳥や大きくなった幼鳥はオジロワシにより捕食される。また攻撃による攪乱により、巣や卵・雛はオオセグロカモメ自体に破壊されたり殺されることもあった。また卵や小さい雛はカラスによる捕食も見られた。大規模繁殖地は集団で反撃が見られることから雛の育つ割合が高いとも考えられる。また下段堤防は海面に近くオジロワシの空からの攻撃がしにくく、営巣率や雛の巣立ち率が高いことが考えられた。最も普通に繁殖していると考えられているオオセグロカモメだが、今回の調査により繁殖数がそれ程多くなく成功率も低いことが判明しつつある。今後どのように生息状況が変化していくか継続し把握していく必要がある。

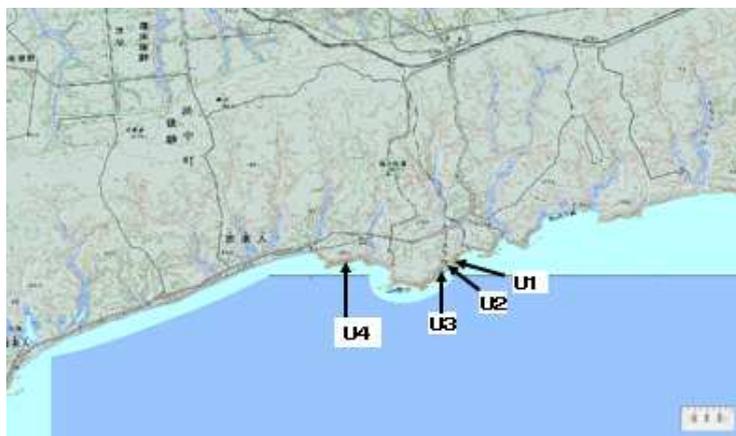


堤防に居座るオジロワシ

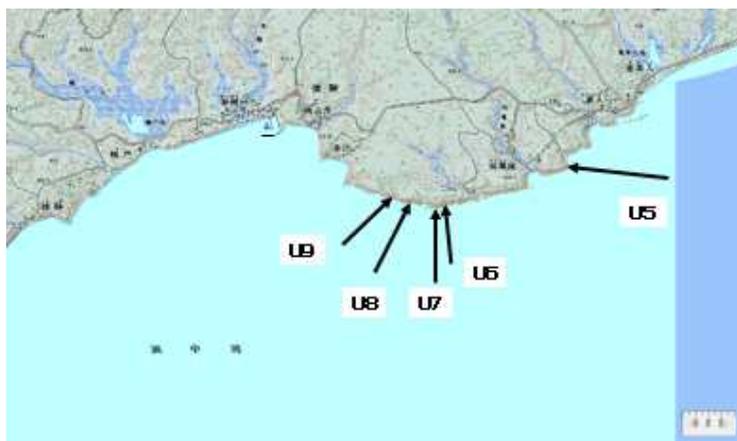


② ウミウ結果：営巣場所及び繁殖状況（沿岸調査及び継続調査か所）

●浜中町北部：赤泊～根室市境界の9か所に営巣



番号	営巣数
U 1	2 1
U 2	1 1
U 3	2 0
U 4	1 2
U 5	6
U 6	1 2
U 7	1 7
U 8	1 2
U 9	1 7
計	1 2 8



U 2

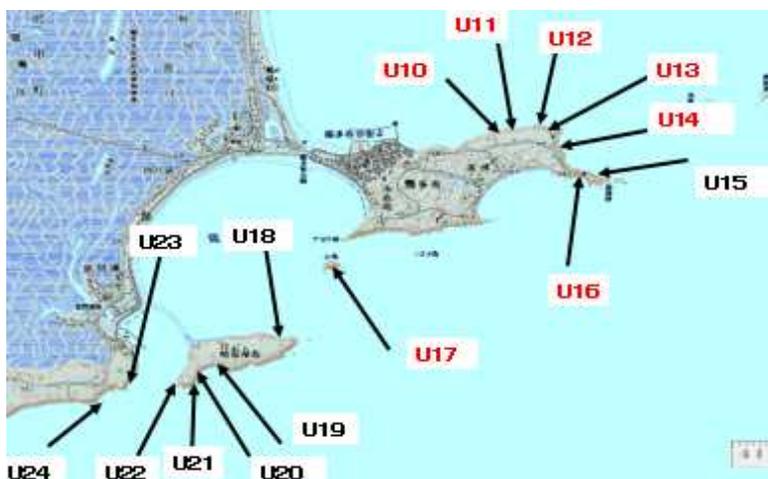


根室境界方面



U 9

●浜中町中央部：霧多布島～琵琶瀬高台下の15か所に営巢



番号	営巢数
U10	20
U11	17
U12	7
U13	3
U14	6
U15	8±
U16	23
U17	204+
U18	4
U19	14
U20	15
U21	2
U22	7
U23	4
U24	15±
計	349+

U10～U14：(霧多布島北側) 繁殖状況

月日	状況	備考
6月7日	53巢	U10～U14の5か所の総数
6月23日	39巢	
7月24日	0巢	親・雛が巢内に全くいない

※オジロワシによる攻撃あり



霧多布島北側

U 1 0



U 1 1



U 1 2



U 1 3



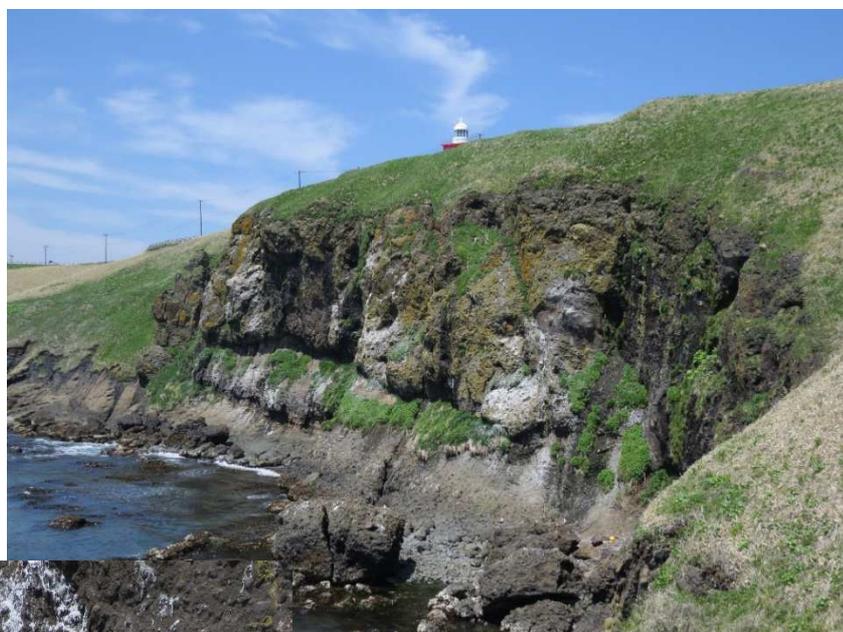
U 1 4



U16 : (灯台南側) 繁殖状況

月日	状況	備考
5月31日	23 巣	巣材運びで出入り
6月21日	11 巣	小さい雛が見えた
7月4日	5 巣	3 巣には雛が見える
7月24日	雛3 + 雛3 + 雛3 + 雛2 + 雛2	
8月2日	同上の雛数	巣立ち間近と思われる

※オジロワシによる攪乱あり



5月31日



7月24日

U17 : (小島・断りがない限り北側のみ) 繁殖状況

月日	状況	備考
5月18日	61 巣	
5月24日	86 巣	
6月4日	105 巣±	
6月21日	73 巣	雛が生まれていた
6月23日	南側99 巣	船にて調査。小島 Max 204 ± 巣となる
6月30日	59 巣	
7月4日	53 巣	雛のいる37 巣。16 巣は座っていて不明
7月19日	幼118 ± 羽	
7月25日	幼120 ± 羽	
7月28日	幼10 羽 + 130 ± 羽	上には10 羽のみ。下の岩礁に幼鳥130 ±。オジロワシが2 羽を食べており、その影響と考えられる。南側の幼鳥も混じっていると考えられる。
7月29日	幼48 羽	下の岩礁のみ
7月30日	南側0 羽	船にて調査。南側には下の岩礁含め0 羽。北側では幼鳥も潜水し餌をとっていた。コンブ船がいるためか、前日よりさらに減少。
8月20日	幼77 羽	下の岩礁

※オジロワシやカラスの攻撃あり



小島北側



北側左

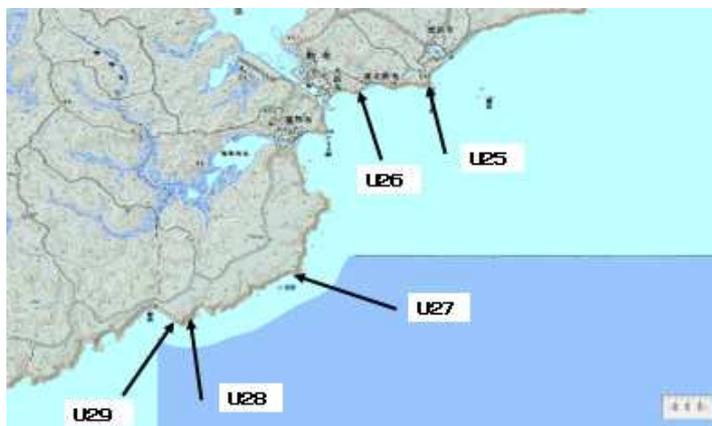


北側右



小島南側

●浜中町南部：散布～鯨浜の5か所に営巣



番号	営巣数
U 2 5	1 9
U 2 6	3 0
U 2 7	9
U 2 8	4
U 2 9	2
計	6 4



ロウソク岩方面

U 2 5



U 2 8



○ウミウ考察

今回の3か所に分けた調査では、北部9か所128巣、中央部15か所349巣+、南部5か所64巣の計29か所541巣+であった。大規模な繁殖地である小島の204+巣を除き、岩や崖地にある繁殖地では2巣~30巣で平均12巣であった。

繁殖状況調査は霧多布島北側のU10~U14の計53巣をひとまとめとし、船上からカウントを行った。灯台下の崖及び小島北側は随時陸上から調査を行った。霧多布島北側の営巣は、7月下旬には親・雛とも見られなくなった。オジロワシ2羽が崖で見られ、ウミウの巣にいたりしたことの影響と考えられた。灯台下は23巣から減少に向かい、8月上旬には5巣で計13羽の雛が育った。小島北側は6月上旬に営巣数が最大の105±巣となった。その後巣は減少し7月上旬には53巣と半減した。下旬には雛が120±羽見られたが、オジロワシが最大15羽集まり雛は島の下に降りてしまった。8月20日には小島下の岩礁に77羽の幼鳥が見られるだけとなり、恐らく南北合わせた小島全体での幼鳥の数と考えられた。これらの結果から小規模な繁殖地では特にオジロワシの影響が大きく、大規模繁殖地においても深刻な問題になっていると考えられた。

ウミウは繁殖場所を年により変えることが分かっており、オジロワシの影響により次年度以降どう変化していくか着目していく必要がある。

小島に集まったオジロワシ



小島下に降りた幼鳥

③ ケイマフリ結果：営巣場所及び繁殖状況

● 浜中町中央部：霧多布島～ケンボッキ島



生息地記号	最大観察数	営巣地番号	営巣数	備考
A	8		未繁殖	ピリカ岩上陸及び亀裂出入り
B	13	K1	2+	給餌回数から営巣数推定
C	2	K2	1	新繁殖か所



B：小島南側



C：ケンボッキ島付属岩



A：霧多布岬海域

期間中に少数が生息し、7月9日に7羽のケイマフリが海上デコイに接近していたのが最大数であった。ピリカ岩の亀裂に出入りするものが最大4羽は見られ、雄と考えられる個体がピリカ岩の亀裂上にとまり盛んに鳴き雌と考えられる個体が合流することもあった。こうした行動はここ数年見られているが、未だに繁殖には至っていない。



ピリカ岩に上がった2羽



ピリカ岩下に来た5羽



デコイ（左）に接近してきた3羽

B：小島海域

小島では本年度の最大数は7月29日の13羽であり近年で最も少なくなった。94年の1ペア以降繁殖がなくなったが2006年に再繁殖が確認された。最大数も01年の5羽から以下のようになっている。巣は南側亀裂にあり、アゼチ岬及び小島の浜からも見えず繁殖数の確認には至っていないが、本年も餌運びの間隔から例年通り複数が繁殖したと考えられる。小島海域の個体はケンボッキ島北側にも移動しているのが観察されている。また霧多布岬で見られる個体についても小島海域にいる非繁殖鳥の可能性もある。

○小島における再繁殖後のケイマフリ数の変動（同時に確認できた最大数）

05年	5羽	繁殖なし
06年	11羽	1ペア繁殖
07年	17羽	2ペア繁殖
08年	17羽	3ペア繁殖
09年	18羽	3ペア繁殖
10年	22羽	繁殖数不明（複数）
11年	16羽	繁殖数不明（複数）
12年	20羽	繁殖数不明（複数）
13年	16羽	繁殖数不明（複数）
14年	13羽	繁殖数不明（複数）

○ケイマフリの餌運び

7月 4日朝	1回	小魚
7月 5日朝	1回	小魚
7月 6日朝	3回（7分・60分間隔）	小魚
7月19日朝	1回	小魚
昼	2回	小魚
7月20日朝	2回	小魚
7月31日昼	2回（9分間隔）	小魚
8月 5日朝	1回	小魚



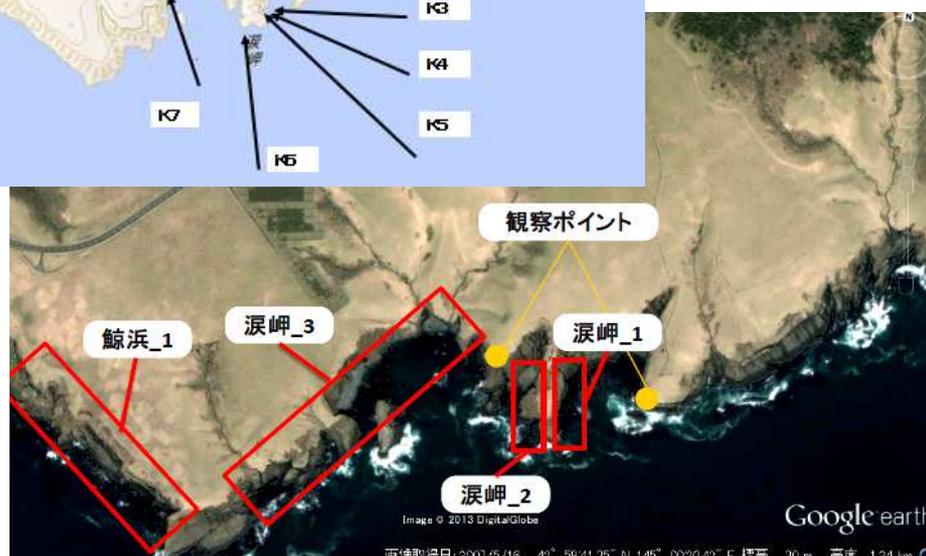
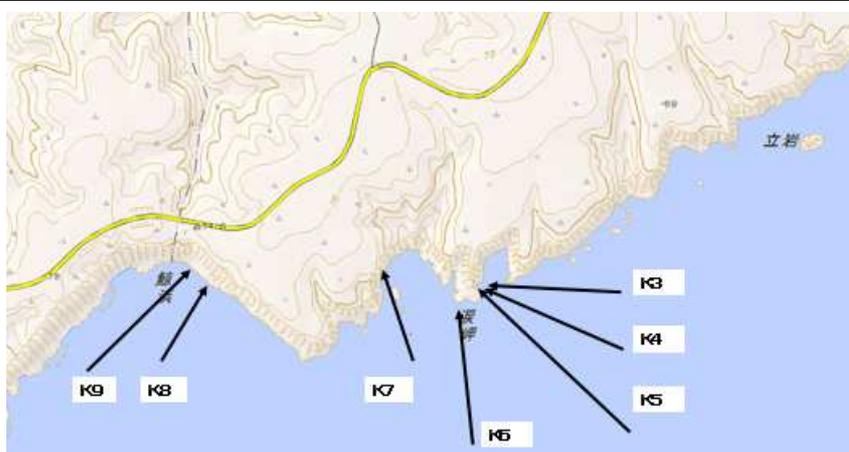
ケンボッキ島も行動範囲



●浜中町南部：散布～鯨浜（中央部C・南部Dは6月23日に海上から生息調査を行い、繁殖確認を7月22日～24日に行なった）



生息地記号	最大観察数	営巣地番号	営巣数	備考
D	29	K3	1	他に繁殖不明出入り1か所
		K4	1	
		K5	1	
		K6	1	
		K7	1	
		K8	1	
		K9	1	





K 3～K 5 の 3 巣 及び不明 1 巣



K 6 の巣

涙岬_3



K 7 の巣

鯨浜_1



K 8 ~ K 9 の巣



涙岬海域での群れ



涙岬周辺での餌運び



○ケイマフリ考察

今回の調査により浜中町全域では10+の繁殖数があることが判明した。霧多布岬のピリカ岩では頻りに鳴きあい上陸や亀裂への出入りがあったものの繁殖まではいかなかった。このような行動は以前から見られていたが、新たな繁殖地とするには何らかの阻害要因があるのかも知れない。アゼチの岬より小島海域周辺の調査では、巣は反対側で見ることができないが餌運びの間隔から複数の繁殖が高いと判断した。ケンボッキ島西側岩では新たに繁殖が確認された。6月23日の海上調査で2羽が見られたところから、7月23日に対岸の陸上から調査を行った結果、餌運びが確認されたものである。涙岬から鯨浜では7巣で餌運びが確認され、別に出入りのある1か所があることが判明した。この地域は浜中町で最大の繁殖地であり、知床半島だけでしか確認されていない陸側で繁殖する貴重は場所でもある。

次年度以降は霧多布岬やケンボッキ島で新たに繁殖することがあるか、涙岬周辺ではさらに多くの繁殖する余地があるところから、継続した調査が必要であろう。



涙岬から鯨浜方面



K8の岩礁にある営巣地

④ オジロワシ結果：沿岸調査時の確認場所及び羽数（北部6月4日、中央部及び南部6月23日に調査）

北部



番号	数
W 1	1
W 2	1
W 3	1
W 4	1
W 5	1
W 6	1
W 7	1
W 8	1
W 9	2
W 1 0	1
W 1 1	1
W 1 2	1
W 1 3	1

中央部



南部



○オジロワシ考察

船による海上からの視認では14羽のオジロワシが崖上や飛来中で確認された。調査日が違うにしても、沿岸域に点在し生息していると考えられる。オオセグロカモメやウミウの継続調査を行った霧多布港や霧多布島及び小島でも複数が飛来し、ウミウの雛が幼鳥になった小島での7月下旬には15羽ものオジロワシが集まるなど、海鳥に多大な影響を与えていると考えられた。以前には、夏は少ないと感じていたオジロワシだが、現在のように頻繁にみられる状態になるまでの生息数の変化は把握されていない。今回の調査により、浜中町沿岸域での生息状況の一端が判明したところから、継続調査により今後の数の推移や海鳥への影響を把握していく必要があるだろう。



